

北九州市保健環境研究所報

第 51 号

(令和5年度)

北九州市保健環境研究所



北九州市民憲章

わたしたちのまち北九州市は、美しい自然に恵まれ、ながい歴史とたくましい産業をうけついできました。

わたしたち北九州市民は、このまちを愛し、よりいっそうの市民参加によるまちづくりをめざしています。

このふるさとに、実りある未来を築くため、わたしたちは、みんなで守る約束を定めます。

緑を豊かに 清潔で美しいまちにします

きまりを守り 安全なまちにします

人を大切にし ふれあいの輪をひろげます

元気で働き 明るい家庭をつくれます

学ぶ楽しさを深め 文化のかおるまちにします

はじめに

保健環境研究所報第 51 号の発刊に際しまして、ご挨拶を申し上げます。

令和 3 年 4 月に研究所の所長に着任してから 3 年半が経過しました。

着任当初は、新型コロナウイルス感染症対策が優先され、研究所の本来業務を後回しにすることも多々ありましたが、ようやくコロナ禍前のように試験検査や調査研究に専念できるようになってきました。

また、本年 3 月には、新型コロナ対応における課題を踏まえ、今後の感染症対策を強化する目的で、「健康危機対処計画」を策定しました。現在、この計画を着実に推進するため、有事を想定した実践型訓練の実施や感染症検査に速やかに対応できる人材育成計画の策定など具体的な取組みを進めているところです。

この中でも、人材育成については、本研究所だけでなく、他自治体でも深刻な問題となっているようです。今年 7 月に開催されました地衛研及び全環研協議会九州支部総会においても、人材育成が議題として取り上げられました。これについて、各研究所長からは、専門的な技術の習得方法、技術職としての人事異動のあり方、九州・沖縄地域の研究所間の連携強化や共同研究の可能性など多くの意見とともに活発な議論が展開されました。

さらに、公務員を目指す理系学生の減少や専門的な技術を有したベテラン職員の退職など、将来、多くの研究所において、技術の継承が困難となる可能性も危惧されるといった意見も出されました。

一方、環境分野の課題は、どうなっているのでしょうか。地方自治体の研究所は、かつては、地域の課題である公害問題の解決を目指した取組みを進めてきましたが、近年は、温暖化対策や脱炭素社会の実現といった地球規模での課題への取組みが求められることとなってきました。特に、今年の夏は、北九州市でも、統計開始以来最高気温となる 37.6℃を記録するなど、これまでとは明らかに異なる「異常な夏」となってしまいました。このまま続けば、今年の異常な夏が当たり前になってくるのでは、との懸念も抱いております。

脱炭素化を含めた気候変動対策は、今後大いに加速しなければならない課題ですが、地方自治体の研究所として、具体的に、どのように関わっていかなければならないのか、どのような取組みができるのか、さらなる議論の深まりが求められています。

最後になりますが、今後の感染症対策だけでなく、食の安全や地球規模での環境問題への対応といった様々な課題に対して、これまで以上に地方自治体の研究所に求められる役割が大きくなってきました。このため、単なる検査機関ではなく、行政に対して政策提言できるような組織として、専門性の高い人材の育成や次の世代への技術の継承を図ってまいりますので、皆様方のより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和 6 年 10 月

北九州市保健環境研究所
所長 佐藤 健 司

目 次

第1	沿革・組織及び概要	
1	沿 革	1
2	組 織	1
3	検査件数	2
4	決算・予算概要	3
5	分析機器整備状況	4
第2	業務内容	
1	試験検査等	
	環境部門	5
	衛生化学部門	9
	微生物部門	15
2	調査研究	21
3	そ の 他	28
第3	講演発表	
	・有害大気汚染物質調査結果を活用した地域特有の大気環境問題把握の試み	31
	・GISによる可視化を通じた大規模水害等危機的事象への備え	33
	・北九州市内で製造されたそうざいの細菌汚染状況と保存温度の影響	35
	・薬剤耐性菌におけるNGS解析の現状と課題	39
	・エンテロウイルスD68検査法の導入と改良	41
	・市内におけるネコ及びイヌのSFTSウイルス保有状況調査	43
	・梅毒感染者の増加に伴う北九州市保健環境研究所の取組	45